

平成30年度 佐賀県立神埼高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>校訓「至誠、尚学、進取」を基調に、高潔な人格形成を目指した人間教育の振興に努め、地域に愛され、自信と誇りに満ち、向上心豊かで、社会を逞しく生きていく人間を育成する。</p> <p>【至 誠】 この上ない誠実きわめて誠実。日々の学校生活に誠実に取り組み、人格を高めること。 【尚 学】 学問を尊ぶ。謙虚な姿勢を持ち、学ぶことを専らとすること。 【進 取】 進んで新しいことに取り組む。慣習などにとらわれず新しいことに積極的に取り組むこと。</p>	①向上心の育成 ②学力の向上 ③生徒指導の徹底 ④進路指導の充実 ⑤環境美化の推進 ⑥生徒会活動・部活動の活性化 ⑦保護者および地域社会との連携

達成度
 A:ほぼ達成できた。
 B:概ね達成できた。
 C:やや不十分である。
 D:不十分である。

3 目標・評価

① 褒めることを通して自尊感情、自己有用感を高め、向上心・チャレンジ精神を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○向上心の育成	第1学年の取り組み	生活指導と学習指導の両面から人材育成を目指す。家庭学習時間の確保と時間に対するメリハリをつけること。県下一斉模試1000番以内10名、1500番以内20名を目指す。	基礎・基本の定着と自分の将来像を明確にすることのできる人材の育成を行う。生活面と学習面の両輪を常に保ち、人生における高校の位置づけを理解させる。未知の世界へ一歩踏み出す勇気を持ち、何事にも挑戦する人材の育成を図る。	B	生活面は現在のところ落ち蓄えている。学習面については地道に取り組んでいるが、まだまだ成果は出ていない。中学校の学びなおしを行ったことは成果があったと思う。	基礎的項目の定着は今後も継続して取り組む必要がある。文理選択を通して自分の将来像を明確にし、新たなことに挑戦できる環境づくりを行ってほしい。
		第2学年の取り組み	・家庭学習時間を1日3時間以上キープする生徒が50名以上となるよう指導する。 ・年間出席率90%、皆勤者60名以上をめざす。 ・県模試1000番以内10名、1500番以内20名をめざす。	・大学訪問・ジョイントセミナー等を通して進路意識を育み、またオープンキャンパスへの積極的な参加を促す。 ・総合的な学習の時間を活用した小論文対策、小テスト等により学力向上を図る。 ・成績優秀者・不振者双方に対する個別指導を充実させる。	B	年間出席率は目標を大きく上回っており、学習に対する意識も向上している。模擬試験では理科・社会で好成績をあげた生徒も多かった。とはいえ、生徒個々の差が大きくなり、また、家庭学習は依然として不十分な面が多く見られる。継続した指導が必要である。	家庭学習を確立させるためには、目標設定が重要である。そのために、進路意識の層の厚みを増やすこと、また、自分の将来像を具体的に描かせていく仕掛けが必要である。模擬試験や小テスト等で目標を設定させることも有効だと思われる。
		第3学年の取り組み	・3カ年の集大成としての進路決定を促し、すべての生徒の進路実現を目指す。 ・最上級学年として、下級生の模範となるような、高い倫理観と規範意識を持った言動を促す。	・進路講演会等により、最新の進路情報を提供する。また、生徒及び保護者との面談において、適切な進路指導を行うことで、すべての生徒の進路実現をサポートする。 ・キャリア講演会やマナーアップ集会等を通して、豊かな人間性を育む。	B	進路講演会及びキャリア講演会の情報提供や面談がこまめに進んだ。AO入試や推薦入試指導を早期に入社と共に、生徒の学習態度や志望校に応じた指導ができた。推薦入試合格者(国公立5名・西南大、福大等複数名)進路決定者(1月末現在110名)	学校・生徒・保護者の共通理解を更に深めるために、1,2年次と同様に学期に1回程度、保護者会を実施する必要がある。また、生徒の現状把握を外部機関だけに頼らず、校内資料や定期的な実施し、本校独自の仕組みや進路指導体制を確立する必要がある。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務の内容精選 効率化を図る取組み	学校行事や会議、事務作業等を見直しを図ることによって、教職員の労働時間短縮を図っていく。「時間外勤務昨年度比-10%」を目標設定とする。	教職員から提案された見直し・改善案を基に対策会議を行い、検討する。短期的・中長期的課題に分けて進めていく。部活動の休業計画が十分でない職員については、管理職がヒヤリングし改善を図る。	C	働き方改革による時間削減を呼びかけたが、逆に時間外の勤務が増加した。また、改善案を想定したように工夫改善することが実現できなかった。	各分掌事務に適切な人員配置となるよう業務量を把握する。部活動指導については、県・学校の方針に沿った計画作り及び実績となるよう、定期的に活動状況の点検確認を実施する。	

② 質の高い授業実践により、基礎学力の定着と学力向上を図り、確かな学力を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	教科指導の充実	・生徒による授業評価において「理解できる」「概ね理解できる」割合を80%以上にする。	・生徒の目標や実態に応じた授業計画を立て、適切な教材を精選することによって適切な教育を行う。 ・授業研究や教職員間の相互研修などを通して教員の授業力を向上させることにより、授業内容の改善を図り、分かりやすい授業の実践に努める。	B	教材の検討、試験結果の分析、生徒の実態に応じた教材作成など、教員同士で授業に携わり合いながら、職員同士の目標をもって生徒の学力向上に取り組むことができた。	教科部会などの研究授業を実施したものの、指導力の向上を目指すための定期的な授業の実践は実施することができなかった。次年度は学校全体の取り組みが必要である。
		授業時間の確保	・全ての教科・科目において授業実施率80%以上を確保する。	・曜日振替などで年間を通してバランスをとるよう心がける。 ・出張などに対応して授業の振替を行い、時間数を確保する。 ・学習時間をなくすよう、教科内や他教科との相互連携を図る。	B	曜日振替、時間割変更を順次に行っており、学習はほとんど出なかった。一部の曜日で授業実施数が少なくなったが、特別時間割で対応し、授業を確保した。	次年度は、1.0連休や特定の曜日に休みが集中することがわかっているため、年間計画を吟味し、早期の対応を図る。
	○読書指導の推進	読書環境の整備	・全国学校図書館協議会の定める基準に則り、生徒の知識・教養の涵養と教職員の教育活動に資する選書を図る。 ・図書についての情報を積極的に発信し、図書利用の活性化を図る。	・各教科の要読などを選書に反映させる。 ・「図書館だより」の発行時期を工夫し、生徒が必要とする情報が必要な時に発信できるように努める。 ・レファレンスや県立図書館活用の充実を図る。	B	芸術鑑賞会などは一定の評価がされているが、「図書館だより」などによる新刊の紹介など図書館の活動についての周知に工夫が必要である。	「図書館だより」の作成に生徒を参加させる。また、配布、掲示の方法も変えたい。購入図書についても生徒にアンケートを実施し、反映させる。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICT活用教育の実施	・生徒の学習用PCの活用を推進する。 ・ICTを活用することで、生徒の興味関心を高め、学習意欲を喚起する。	・ICT活用授業実施率の学校平均60%以上を目指す。 ・年1回は各教科で学習用PCを活用した授業を実施する。また、電子黒板使用時の見る側の視点に立ったプレゼンテーションの手法を研修する。	B	ICTを活用した授業実施率は高かったが、各研究授業で学習用PCを利用した授業が行われた。	電子黒板を利用した授業は定着している一方で、学習用PCを使用した授業を普及するために校内研修等を実施したい。

③ きめ細やかな生徒指導により、基本的な生活習慣を確立し、規範意識を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	基本的な生活習慣の確立	・生徒の規律ある生活態度の醸成に努める。 ・頭髪服装検査での事後指導者を毎回10人以下にする。	・遅刻指導及び服装指導を徹底する。年5回、定期考査時に校門指導を行う。 ・年8回、定期的に服装頭髪検査を実施し、事後指導を継続して行う。	B	服装指導違反事後指導者は、概ね10名以下に抑えることができた。しかし、時に10名以上になることがあった。	今後も継続して、職員全体が共通理解の基に保護・礼儀作法などの指導を日頃から続けていく必要がある。
		道徳心の育成	・人間の生の前提が社会生活であることを理解させ、自律的で幸福な人生を生きたための規範意識を身につけさせる。	・HRや授業、部活動や学校行事など全ての教育活動の中で、組織的にまた公平に指導し、自律的・主体的に考えて行動できる市民を育てるように努める。 ・学校生活での各係や役員の仕事に責任を持ち、考えながら活動するよう指導する。	B	学校生活の様々な場面で、ほとんどの生徒達は、主体的に考えながら活動してくれた。少数の生徒は、十分な意欲を感じられなかった。	少数の消極的な生徒に対して、教育相談係等との分掌と連絡を密に取りながら、より細かい指導を行う。
	○生徒指導の充実	問題行動の減少	・全職員の共通理解を深め、学校全体の指導力向上を図る。 ・問題行動を2件以内に抑制する。	・全校集会、学年集会等で規範意識の高揚を図る。 ・クラス担任、学年会と密接な連携を保ち、問題行動の予防と再発防止に努める。 ・特に1年生への指導回数を増やし、継続的に行う。	B	有期となる問題行動は2件以内であった。しかしながら、注意と要する行動は多々あった。	問題行動が起こる兆兆を見逃さず、防止するために日頃の生徒観察と指導を全職員が同じ目差で行ってほしい。
		ICT活用マナーの向上	・携帯電話やスマートフォン、インターネット、SNS等の危険性を理解させ、マナーの向上を図る。	・LHR等で配布物や映像を用いた研修を実施し、モラル向上や危機意識を高める目的の講演会を実施する。SNS等の使用状況調査を行い、使用時間やトラブルの早期発見を図る。	B	教室での研修や、外部講師を招いての研修を実施することができた。しかし、完全に定着はできていない。	今年同様の研修を行いつつ、生徒一人一人が身近な問題ととらえられるように細かい指導をしてほしい。
		●いじめ問題への対応	いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくり	学校ではいじめに関して「しない・させない・許さない」の基本姿勢を、SOSのサインを感じたときには、教職員(保護者)が連携し、早期発見・早期対応に努めていく。対象者については、専門家・保護者・関係者を連携し、迅速に対応する。	日常的な学校生活において生徒を正しく観察し、クラスや学年、部活動等多角的に情報収集を行う。年一回の学校アンケート実施のほか、スコア手帳や各種提出物における生徒記述内容を細やかに把握する。	A	自宅に持ち帰りアンケートを記載することにより、本音を聞き取ることができた。また、記載事項で疑問があったことに関して、関係者への聞き取り等適切な対応をとることができた。
	●健康・体力づくり	健康・安全に関する意識の高揚と実践	・健康安全に関する興味関心を高め、自己管理能力を高める。 ・定期健康診断後の受診率が50%以上にする。 ・生徒保健委員会の活動を活発にする。	・「保健だより」を毎月発行し、健康安全についての意識を高める。 ・「健康診断だより」で健康診断の意義や手順を示すとともに、検診後の要受診者に個別指導を行い、受診率を高める。 ・生徒会と連携して保健委員会活動を行う。	B	「保健だより」は毎月発行することができた一方で、「健康診断だより」については検診前に発行し、意義や手順を知らせることができた。また、検診後は受診勧告書を発行し、個別指導等で受診を促した。	健康安全への意識高揚のために来年度は定期的に「保健だより」を発行していきたい。受診率を上げるために勧告書の発行と個別指導の強化を行いたい。
		教育相談や特別支援教育の充実	・教育相談、特別支援教育についての理解や知識を深め、スクールカウンセラーや担任、保護者と連携しながら、生徒が心身ともに健康的な学校生活を過ごせるよう支援する。 ・専門機関との連携体制を強化する。	・全職員間で情報交換を密に行い、瞬時に状況に応じた支援および対応(カウチング、カウチング等)の活用が行えるよう連携体制を確立しておく。	C	今年度もカウチングを有効に利用した生徒がいた一方で、相談に行きたいがなかなか行けない生徒もいた。カウチングを含め相談しやすい環境整備が必要だと改めて感じた。しかし、担任、教科担当者、養護教諭との連携は今年度も上手くいった。	家庭、教師間、専門機関との連携体制の強化により一層努める。
食育の推進(望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成)		・全校生徒の朝食摂取率80%以上の維持を目指す。朝食メニューの質の向上も目指す。	・「保健だより」の活用や関連教科、部活動との連携を図り、食と健康さらに運動とのつながりについて興味・関心を持たせる。 ・食育推進のための研修会や講演会を実施する。	B	平日の朝食摂取率は83%と目標の80%以上を維持することができた。土日の摂取率は79%と摂取率が低い。土日も部活動に参加している生徒も多いので、平日同様規則正しい生活時間を過ごすことの大切さを伝えていきたい。	食育活動の一層の充実を図りたい。全生徒対象の講演会の実施や実践講演会等の計画を行う。	

④ 進路意識を高め、目標を明確にして、個に応じた指導を継続し進路実現を図る。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	進路希望の達成	・国公立大学合格者数10名以上を目指す。 ・福岡大・西南学院大等への合格25名以上を目指す。 ・生徒個人の進路適性・希望を的確に把握し、95%以上の第一進路希望達成を図る。	・年間を通して課外授業を実施し入試に対応するための応用力の育成を行う。 ・自学自習への取り組みを充実する。 ・各学年進路検討会を実施することで生徒の進路希望を把握し、面談等で適切な支援を行う。	B	A0・推薦入試については、それぞれの生徒の個性を活かした入試への取り組みを充実させた結果、国公立大学名、福岡大・西南学院大6名を始め合計63名の合格者を出した。短大、専門学校、就職についてはほぼ希望通りの進路が決定した。(1月31日現在)一般入試合格に向けて指導を続けている。	1年次から3年間を見通して、より計画的な指導を行う。特に大学入試改革に対応するためにポートフォリオの作成、アクティブラーニングの推進など指導の充実を図る必要がある。また、
		進路意識の高揚	・生徒一人一人が、キャリアプランニングを通して自己実現を行うために、各学年の状況に応じたキャリア教育を行い、進路意識の高揚を図る。 ・進路に関する情報を随時発信する。	・進路講演会、オープンキャンパス、佐賀大学ジョイントセミナー等、キャリア教育を計画的に実施する。 ・希望者に対してインターンシップを行い、職業観を醸成する。 ・「進路のしおり」を作成し、情報発信を行う。	B	大学訪問、佐賀大学ジョイントセミナー等については生徒からも好評で、進路意識の向上につながった。また講演会や進路のしおりを通して適時情報を発信することができた。	キャリアプランニングの能力を更に高めるために、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の取り組みを充実させる。

⑤ 清掃・美化活動、ボランティア活動を通して、良好な教育環境づくりに努める。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○清掃・美化活動	エコ意識・美化意識の高揚 日々の清掃活動の充実	・美化や節約意識を高め、学習に集中しやすい学校環境を作る。	・持ち込んだごみの持ち帰りや紙のリサイクルにより、ごみを減らす。 ・安全点検を毎月行い、掃除用具の不備等の解消や危険箇所の点検・修理を適宜行う。	C	・今以上に紙のリサイクル等今後も続けていきたい。安全点検を毎月行うことができなかったが、その都度危険箇所等の対応はしていた。	・安全点検の日を毎月設定し、担当カ所の点検を継続的に行うようにしていく。 ・生徒会の美化委員会等と協力し、ごみを減らす対策や清掃活動を行ってきたい。
		○地域ボランティア	地域清掃活動の実施	・地域清掃活動の活性化と自主的参加の意識高揚を目指す。	・年3回の地域清掃活動を行う。生徒会を中心として町内の清掃活動を行い、地域貢献、ボランティア精神の育成に努める。	B	年2回実施できた。全校生徒で取り組んだ「校外ボランティア活動」は自主的・積極的に行っていた。地域の一員としての自覚と誇りが高まった。

⑥ 生徒会活動・部活動の活性化							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒会活動	生徒会活動の活性化	・生徒主体の生徒会活動を推進し、全校生徒で取り組む自主的、自発的、能動的な生徒会活動の充実を目指す。	・週1回の生徒会執行部会議を行い、生徒会活動の企画を話し合う。 ・生徒会が主体的に活動し、学校を活性化できるような行事を企画をする。	A	生徒会委員のリーダーシップのもと全校生徒が丸となって、数々の学校行事を盛り上げ、大成功に導いてくれた。自主的・意欲的な姿勢が表れてきた。	現在行っている行事をより効果的にするための手立てを考えさせたい。また、企画・準備・運営までのすべてを生徒会役員の手で行えるように支援したい。
		○部活動	部活動の充実	・部活動加入率90%以上を目指す。 ・学校全体ですべての部活動を応援し合える環境をつくる。	・部活動未加入生徒に対して面談や集会などを通して加入に向けてアプローチを行う。 ・大会予定を全ての生徒で共有する。	A	部活動の加入率も95%まで向上し、ほとんどの生徒が自主的・意欲的に活動をした。学校の活性化へつながり、生活面へもよい効果をもたらしている。

⑦ 学校情報の発信に努め、保護者や地域社会に開かれた学校づくりを推進する。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○保護者との連携	本年度重点目標の周知	・重点目標を「知っている」、「見たことがある」保護者の割合を昨年の評価値90%以上に上げる。	・後援会総会、保護者会、学校HP、学校だより等を通して重点目標を広報する。 ・後援会と協力して、保護者とともに生徒を見守り、支援する活動を行う。	B	昨年度以上に、後援会役員と協力して後援会活動を行うことができた。本年度は夏の全国大会の準備運について上手く活動できた。	地区保護者会の廃止と後援会総会の在り方の改定、三年生激励会の変更等来年の課題を役員と一層連絡を密にしながら協力して行う。
		○地域社会との連携	地域への情報発信 地域行事への参加	・地域行事への参加に積極的に努める。 ・「学校だより」を年4回以上発行し、生徒・保護者及び神埼市全戸に配布する。 ・「うどん会」で神埼そうめん組合との連携を図る。	・「学校だより」等配布物の紙面作りを工夫する。 ・「学校だより」を学校HPに載せ、神埼市の全戸へ回覧し情報発信を続ける。 ・地域の行動を把握し積極的に参加して地元との連携に努める。	B	「学校だより」について、計画に従った活動ができた。地域活動についても積極的に参加することができた。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
	○組織運営	教職員の連携促進	校務が特定職員に集中傾向にあり、業務の「効率化・分散化・精選」に努める。なお、アンケートにおいて「教職員の連携が図られている」割合を90%以上とする。	運営委員会を中心として、校務分掌部会・学年会で学校行事や企画・会議等を見直しや精選を行う。また、風通しのよい校務運営に努めている。	B	アンケートの結果「ほぼ達成、概ね達成」87.5%で数字の上では概ね到達している。職員とのコミュニケーションを図る機会をより多く設定し連携強化に取り組みたい。	会議資料の事前配布や時間指定等による効率的な運営を行う。本校の実情に見合った分掌組織体制に改善するとともに、業務内容や業務量に応じた人員配置とする。

4 本年度のまとめ・次年度の取組						
<p>○日常的教育活動(授業・特課・部活動・学校行事)の取り組みに関しては、アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)を実践し、生徒自らが学ぶ意欲を高め、進路実現のために学力向上と人間力アップの取組みを保護者や地域と連携しながら進めている。次年度もより深化した取り組みを継続していく。</p> <p>○学校評価アンケートにおいては、各項目において概ね保護者の評価(満足度)は高い。生徒自身も進路目標達成のため、さらには教師の期待に応えるよう努力を続けている。また、進路指導部や学年での取組みによって、個人差はあるが確かな学力を身に付けてきている。また、生徒会活動・部活動の活性化により学校全体に活力が生まれ、努力することにより自信を持って臨むことができるようになり、生徒の進路実現に繋がってきている。地域行事(祭りや式典、各種イベント)に関しては、県や市町の行政側から、また地元商工会や自衛隊、幼稚園、介護福祉施設から声をかけていただき、学年や生徒会・運動部・文化部問わずボランティアとして積極的に参加し、地元神埼市・郡の皆様が親しまれている。</p> <p>○教職員も校外での研究・研修会に参加し、電子黒板や学習用パソコン等ICT機器を活用したわかりやすい授業の工夫改善や、質の高い授業の実践・教科指導力向上に努めている。</p> <p>○働き方改革に向け、長時間労働の縮減と部活動指導時間の点検・見直しに取り組んだが、期待通りの成果は得られていない。</p>						

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目